

血糖濃度の調節

ー からだの調節を指令するしくみの実際 ー

「生物基礎」担当 Osami Nabeta

03体内環境とその維持⑤

http://blog.goo.ne.jp/bio_ascidian

授業の目的 前回④「内分泌と自律神経」と同様です。

授業の目標 次の課題（1）～（4）について、時間内にクラス全員が解決できるようにする。

課題 次の①②の各状況について、血糖濃度（＝血しょう中のグルコース濃度）がどのように調節されるのか、（目の付けどころ）も参考にして、「内分泌と自律神経が具体的にはたらくようす」を説明しなさい。

（目のつけどころ）

- ・血糖濃度は、平常時と比較して、高いか、低いかな。
- ・血糖濃度は、からだのどこで、高い／低いを確認しているか。
- ・血糖濃度を変化させるための指令は、からだのどこから、どのようにで出るか。
- ・血糖濃度を変化させるための指令は、何通りあるか。
- ・血糖濃度を高くしたり、低くしたりすることを行っているのは、からだのどこか。
- ・調節した血糖濃度は、どのようにして最初に指令を出したところに伝えられるか。

①食事をして、体内に大量のグルコースが入ってきたとき。（つまり、お腹いっぱいするとき）

②12時間ほど食事を採れず、何も食べていないとき。（つまり、とても空腹のとき）

振り返り この授業で生じた疑問や謎について、書き留めておきましょう。